

トランプ大統領はアメリカに輸入される自動車に25%の関税をかける<sup>かんぜい</sup>と発表<sup>はっぴょう</sup>しました。日本からの輸入車も対象<sup>たいしょう</sup>となります。ワシントンから報告<sup>ほうこく</sup>です。

(梶川幸司記者報告)

関税<sup>かんぜい</sup>によってアメリカの「黄金時代<sup>こがねじだい</sup>」を復活<sup>ふっかつ</sup>させる。ついにその対象<sup>たいしょう</sup>が、日本の基幹産業<sup>きかんさんぎょう</sup>である自動車にまで広がりました。

アメリカ トランプ大統領

「これは『アメリカ解放の日<sup>あめりかかいほうのひ</sup>』の始まりだ。アメリカ製<sup>せい</sup>ではないすべての自動車に25%の関税をかける」

自動車への25%の追加関税<sup>ついかかんぜい</sup>は4月3日に発動<sup>はつどう</sup>し、税率<sup>りつ げんざい</sup>は現在の2.5%から大幅<sup>おおはば</sup>に拡大<sup>かくだい</sup>します。日本からの輸入車も対象<sup>たいしょう</sup>に含まれます。

トランプ氏は、25%の関税は「恒久的な措置<sup>こうきゅうなそち</sup>」だとしたうえで、「自動車メーカーがアメリカに工場<sup>こうじょう</sup>を作れば関税を支払<sup>しらひ</sup>う必要はない」と述べ、さらなる投資<sup>とうし</sup>と雇用<sup>くわう</sup>、税収<sup>ぜいしゆ</sup>がもたらされると異議<sup>いぎ</sup>を強調<sup>きやうきよう</sup>しました。

一方<sup>いっぽう</sup>、関税<sup>かんぜい</sup>の強化<sup>きやうか</sup>によって新車<sup>しんしや</sup>の価格<sup>かかく</sup>が数十万円以上も上昇<sup>じやうしやう</sup>する可能性があり、アメリカ国内からも消費者へのしわ寄せや、物価高騰<sup>ぶつかけうたう</sup>の引き金となる恐れが指摘<sup>しきさつ</sup>されています。

トランプ氏は来月2日に日本も対象となりうる「相互関税<sup>さうごかんぜい</sup>」の発表<sup>はっぴょう</sup>を予告<sup>よこく</sup>していて、関税<sup>かんぜい</sup>への頑<sup>がん</sup>な姿勢<sup>しせい</sup>が変わる兆<sup>しずく</sup>しはありません。